
九州産業大学

「九州産業大学における e-learning 導入について」

～能力別クラスに応じた e-learning 課題と小テストの実施状況～

大藪 修一

2006年8月執筆

1. 導入背景

私が勤務する九州産業大学では、2004年度から新英語カリキュラム「全学共通英語教育」が始まり、2005年度から文法力や語彙力養成、リーディング力強化等を行う「英語」と、聞く・話すといったコミュニケーション能力を図る「英会話」を開講しています。これは学部の枠を取り払い、個々のレベルに応じた指導をするためです。新入生約3000名が入学直後にTOEIC Bridge®を受け、能力別クラス(約30人前後)に分かれてそれぞれのクラスを受講していくこととなります。能力別クラスは4つのグループ(初級・中級・上級・最上級)に大別され、それぞれのグループで、TOEIC Bridgeの達成数値目標、成績評価基準、指導ガイドライン、テキストなどがレベルごとに指定されています。このカリキュラムの一つとして、本学では2005年度からe-learning「アルクネットアカデミー」を導入し、授業外で課題学習をさせることになりました。このシステムの導入目的は次のような理由からです。本学では、1、2年生次の英語授業で基礎力を養い、TOEIC Bridgeで140点以上を目標にし、3年次からはTOEICに移行する流れを作っています。しかし、90分授業を週2コマでは学習時間の量があまりにも少なく、英語が苦手なまま入学してきた学生(Bridgeスコア100点以下)を2年間で目標スコアに到達させるのは困難です。そこで、e-learning「アルクネットアカデミー」を1、2年次の課題学習として導入することにしました。システム面からは、大学構内に管理サーバーを設置し、イントラネットを通じて学生に提供できます。学生は学内LANに接続されたパソコンで常時学習することができ、教員は学生一人ひとりの学習進捗状況や英語力を把握することができるという利点があります。また教材内容面からは、英語力向上のための語学教材としてはもちろんのこと、TOEIC Bridge、TOEIC対策学習としても様々なコースが用意されており、学生のレベルや目的に応じた学習ができるという利点があります。本学では、現在5コース(「スタンダードコース」、「初・中級コース」、「Power Wordsコース」、「基礎英語コース」、そして「英文法コース」)を導入しています。

2. 能力別クラスに応じた e-learning 課題

2005年度は全クラス共通でPower Wordsをe-learning課題としていましたが、2006年度から5コースを能力別クラス別に指定し、レベルに応じて学べるよう配慮しました。例えば、1年次の「英語」では、初級クラスは、英文法コースレベル1・セクション1-20を、中級クラスでは、基礎英語コース・リーディングunit 1-20を、そして上級以上は基礎英語コース・リーディングunit 11-30を課題学習として前期・後期に分けて指定しています。一方、1年次「英会話」では、初級クラスはPower Wordsコース、中級は基礎英語・リスニングコースunit 1-20、上級以上は基礎英語・リスニングコースunit 11-30を前・後期に分けて指定しています。つまり、学生たちは「英語」と「英会話」の授業で2つのe-learning課題をすることになります。このe-learning課題は2年生次の後期までカリキュラムに組み込まれており、この科目を履修したすべての学生の必修課題となります。

3. 小テストの実施

さらに、e-learningを怠けて取り組まない学生がでてくる可能性を払拭するため、毎週の授業で課題ごとの小テストを全クラスで実施することにし、その結果を最終成績に加えることにしました。小テスト自体は、教員の有志者で約半年かけて作成しました。問題を作成する際に念頭においたのは、e-learningをある程度時間をかけて学習しておけば、満点をとれるようにしたこと。小テストの結果を最終成績に加えることにより、多くの学生たちはその週の授業までに課題範囲をまじめに取り組んでいます。副次的な効果として、私のクラスの例を挙げると、毎回の小テストは授業開始のチャイムと同時に開始し、5分程度で終了するようにしました。その結果、遅刻者がほとんどなくなりました。加えて、基礎英語コースや初・中級コースなどは教材をプリントアウトできるため、休み時間中に学生たちがそのプリントした紙を見ながら必死に小テストの予習をしている姿を多く見かけるようになりました。一方で、ある問題も生じました。本学にはコンピュータ課題学習

を行うことができる学内施設はLL ライブラリー、総合情報基盤センターなどがありますが、1、2年生合わせて5000人以上の学生が集中して学習を開始したため、パソコンの使用頻度が従来よりも10倍に膨れ上がり、当然のごとく、パソコンの数が足りず、席が空くまで順番待ちというケースが多く見られるようになりました。関係者の間では、この現象を「e-learning ショック」と呼んでいるそうです。この対策として、現在CALL教室(60席)を2教室新設するほか(9月完成予定)、自宅のパソコンからも取り組めるようにシステムを変更中です。

4. 期待される成果

本学の「全学共通英語教育」が開始されて2年半が過ぎ、e-learning 課題学習導入後、徐々にその成果が見え始めています。実際に、2005年度の4月と1月に実施したTOEIC Bridgeの平均スコアは1月の方が有意に伸びていることが分かりました。したがって、能力別クラスに応じて、様々な学習コースを割り当て実施しているe-learning 課題学習による成果は、2007年1月に実施予定のTOEIC Bridgeのスコアにもぜひ表れてほしいと願っています。さらに、本年度から能力別にネットアカデミーで課題学習を与えるにあたり、昨年度試験的にいくつかのクラスでe-learningの効果について調査しました。この調査では、10クラスの約300名を対象に「基礎英語コース・リーディング」を課題学習として指定し、10週間の継続的な学習が学生の読解にどのような影響を及ぼすかを調べました。その結果、TOEIC Bridgeのスコアより学習開始前後では、Reading Strategyのスコアが有意に伸びていることが分かりました。現在はe-learningと小テストの関係について分析しているところです。

以上、九州産業大学におけるe-learning導入について述べてきましたが、最近新開発された「アルクネットアカデミー2」が発表されました。本学においても来年3月に切り替わる予定です。この「NA2」は、「シリーズ」ALC NetAcademy 2 紹介 NA2リリース発表と開発までの経緯」(ALC NetAcademy 通信 [25]より)によると、前バージョンで指摘されていた問題点や改良希望点について実際に使用している先生方から直接聞き、その意見に基づいて改良されているとのこと。特に、各学習コースの教材データを利用した小テストの作成の機能が新たに実現されました。このことは、現在本学で実施しているe-learning課題の小テストを作成するときの苦勞を味わった教員の一人としてはうれしい知らせです。